

# 熊本大学ゆかりの廃木材を使ったアート制作

所属・氏名 教育学研究科 教授 ・ 松永拓己

## 目的とするSDGsゴール



## 1. 教育・研究の概要

熊本大学では年間多くの敷地内の木々が剪定・整枝、倒木等で廃材木として処理されている。これらを資源として有効活用し、魅力あるものに作り変え、アート作品として活かし、社会に還元する。



## 2. 教育・研究の目的

熊本大学で排出される剪定、整枝、倒木材等による廃木材を有効活用する。熊本大学の樹木としてアート作品化するとともに、ストーリー性のある熊大グッズとして展開し、廃木材の再付加価値化による経済的循環をはかる。また、熊大に眠る優資源としての社会的認識を高め広めることを目的とする。

## 3. 今年度実施した教育・研究

### ・本年度中の教育・研究の取組

- ①熊本大学内で排出される廃木材を集約した。
- ②廃木材を乾燥させた。(半年程度乾燥。2年乾燥推奨)
- ③廃木材を業者依頼し荒加工した。
- ④木材の作品化 (アート制作。付加価値研究)
- ⑤記念品化・設置および商品化計画 (「くまだいの木」)
- ⑥授業開発 (廃木材作品学生制作)



熊本大学内の廃木材「樺」

### ・上記の取組によって生まれた成果 (SDGs達成へどのように貢献するのか)



コースター試作



鉛筆立て試作



熊本空港施設内展示



附属小学校記念品

熊本大学の樹木資源を、廃棄するだけでなく、新たな価値を見出し、さらにアートで付加価値化させることを実現した。熊本大学で育った熊大由来の「くまだいの木」名で記念品・オブジェ化させた。廃材木をアート作品材料として見直しを行い、SDG's 関連商品化していく試行が繰り返し、廃材木の商品化と教材化および廃材木の記念品等を介した人々のコミュニケーション活用により廃材木の有効活用の方向性を広げることが出来た。(附属小150周年記念品 熊大アートギャラリー展記念品等 阿蘇くまもと空港そらよかビジターセンター内SDG'sミライパークでの企業協力展示 )

### ・今後の展望

単年度の活動では終われるものではない。樹木の乾燥に半年から2年かかり、剪定の機会、制作、展示、販売確立への試行を繰り返し、数年間に及ぶ「くまだいの木」プロジェクトになると思われる。本研究は、熊本大学に廃木材が発生するかぎり資源として活用できる。また、研究により改良改善開発が進むことで、より多彩な広がりのある記念品・作品・商品・ワークショップ等の展開が期待できる。